

「郡山の戦争展」3年ぶりの開催 戦争は絶対させてはいけない

マーク・ジェレズニャク福大教授が、ウクライナの現状を講演

第三十八回平和のための郡山の戦争展を開催して

戦争展実行委員長 伊藤 洋

「コロナ感染のため二年間の中止、三年ぶりの開催となりました。」

開催にあたっては二つのことが不安材料でした。一つは、二年間のブランクがあり現状に合う展示や催しがスムーズにできるのか、関連する催しもコロナ禍のため中止してきたこともあって、実行委員会の構成もうまくいくのかなど、運営面での心配です。二つ目には、コロナ感染第七波で、実際に戦争展そのものの開催が可能なのだろうかという心配で直前まで不安でした。

反面ロシアのウクライナ侵略に乗じて強められた防衛費の二倍化や敵基地攻撃の具体化、核の持ち込み等平和憲法改悪の動きという急激な政治的变化に、ここ郡山での対応として声を上げることが、今、必要なこととしてどうしても開催したいという思いが沸き上がっていました。結果として、開催してよかつたという安堵感が個人としての思いです。協力ありがとうございました。

寄せられた感想文を紹介します。

「せんそうはほんとうにこわいと思いました」(8歳)

「せんそうはおそろしいとおもいました」(7歳)

「毎年この時期になると改めて考えさせられる時間です。平和が一番と誰もが思い願っていることですが、平和にするために何をしなければならぬのか、いつも問うています。日本の基本的な思いを突き通す土台をぶれてはいけないと考えています。(50代)」

「今後も続けていきましょう」等々。

三日間の参加者は、一九二人と少ない人数、反省すべき点です。同時に、コロナ禍のためか家族での参加者や若者の姿が少なかった。しかし、「戦争体験を語る会」に二人、「ウクライナの現状から」の講演に五人、ウクライナ大使館へのカンパ四万七千円寄せられ、開催した意義とかが達成できたと思います。

最後に、マークさんの講演感想文八枚から一枚を紹介します。「マークさんのウクライナの現状を見て胸が痛みました。特に、姪ごさんの赤いドレス姿の写真に何と言っているのか言葉がありません。ウクライナの方々は、個人の幸せ、命を守るといことをはつきり自覚して行動しています。日本は、国のためにということをや再び持ち出してきました。私たちもウクライナのように、個人の尊厳を一番の価値として行動していききたいと強く思いました。それがまた、人々を強くするというこも。」

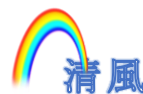


不屈

「大地にしっかりと根をおろしたガジュマルはどんな嵐にさらされてもびくともしない」

瀬長亀次郎

沖縄県知事選「玉城必勝」へ5万円のカンパを送金しました。
沖縄・福島連帯する郡山の会



1970年から衆議院議員を7期務めた瀬長亀次郎さんの230冊余りの日記と当時の映像や写真、取材などをもとに作られた2017年の映画

「米軍が最も恐れた男 その名はカメジロー」と2019年の「米軍が最も恐れた男 カメジロー不屈の生涯」を観た。

「この瀬長1人が叫べば50m先までは聞こえます。しかし、ここに集まった全員が声をそろえて叫べば沖縄全島にまで響きわたります。沖縄県民80万人が叫んだらどうでしょう。太平洋の荒波を越えてワシントンまで届きます。」と聴衆に語り掛け、熱狂させた。

沖縄の革新統一は1968年に結成された「明るい沖縄をつくる会」から続く。瀬長さんは「小異を捨てずに大同につく」と話していたという。

十一日(日)の夜、玉城デニー知事が再選を果たした。沖縄から基地が無くならない限りオール沖縄の闘いは続く、かつて戦場となった沖縄の人々の平和への願いとともに。(遠藤)